世界から、東アジアから歴史を見る

■ 世界、東アジアとのつながり

世界、東アジアの記述を充実させ、日本と世界の歴史が相互に深くかかわっていることや、文化や生活の多様性に気づくことができるようにしました。

明から優遇されアジアの交易を担った琉球王国。多彩な交易で栄え、独自の文化が育ちました。

綿ぼこりの中で働くイギリスの子ども。綿織物と蒸気船は、インドへ、アフリカへ、日本へと。

1 琉球人〈伝 狩野一信「国々人物図巻」京都国立博物館蔵〉

2 首里城

(13) アジアの海をつなぐ王国 —琉球王国—

琉球の船はどこへどんな物を運んでいたか。ラッコの毛皮はどんなルートで手に入れたか。

首里城
琉球王国の都は，首里に置かれた。首里城は何度も火災にあい，そのたびに再建されたが，1945年の沖縄戦で全壊した。現在の城壁と建物は，1992年に復元された。

■ マラッカに行く琉球船

1463年，琉球王国の那覇の港から，たくさんの商品を積んだ船が，マラッカ王国（現在のマレーシアの一部）をめざして出航しました。船は，明の皇帝からあたえられたものです。長さ40mほど，大砲や矢

蒔絵
漆器の表面に絵をかいたり，金つけて仕上げる技法。

3 19世紀にえがかれた那覇港の進貢船
19世紀まで，琉球王国は中国に朝貢して
〈沖縄県立博物館・美術館蔵〉

1 朝鮮通信使
〈「朝鮮国信使絵巻」長崎県立対馬歴史民俗資料館蔵〉

080

(5) 江戸を行く朝鮮通信使 —朝

通信使の行列は2000人。朝鮮はなぜ送り，幕府はなぜ受け

■ 漢城から江戸へ

江戸幕府は，徳川吉宗が将軍にな
対馬藩（長崎県）を通じて朝鮮に求め
朝鮮は通信使を派遣しました。
正使や副使には教養ある高官が任命
して，使節は全部で500人にもなり
が案内し，行く先々の藩からも人数が
行列になりました。江戸に着くと，正
中と会見して，国書を交換する儀式を

各藩は，行列が通る道を清掃する
て迎えること，見物人に不作法がないようにすることなどの触れを出し
ました。通信使が通らない地域の人びとも，接待の負担を求められました。

めったに見られない行列だったので，多くの人びとが見物しました。また，地方の儒学者は宿を訪ね，漢文を用いた筆談で教えを請いました。今でも，通信使を迎えたことが，祭りや人形として各地に残っています。

■ 申維翰と雨森芳洲

このときの通信使の書記官・申維翰は，対馬藩の役人・雨森芳洲と，半年以上，いっしょに旅をしました。二人は，朝鮮語を使って遠慮なく話し合える間柄になったといわれます。次は，二人の会話です。

2 雨森芳洲（1668～1755）／対馬藩の儒学者。釜山に滞って朝鮮の地理・歴史・朝鮮語を学んだ。「誠信の交わりが大切だ」と説いた。〈芳洲会蔵〉

116

朝鮮通信使の大行列が江戸に向かいます。豊かな交流、外交、交易の姿を描きます。

1 糸車で羊毛から糸を紡ぐ（1814年）

2 ミュール紡績機（1830年代はじめ）／綿花から一度に300本ほどの綿糸を紡ぐ。

(3) 工場で働く子どもたち —産業革命—

少年が朝5時半から働く工場は，どのように変わっていくのか。労働者は何を求めるようになったか。

■ 蒸気と綿ぼこりの中で

7歳の男の子プリンコウは，朝の5時前にベルで起こされます。麦がゆの朝食をかきこみ，寄宿舎を出て，5時半には工場に入ります。綿花から糸を紡ぐ工場の中は，綿ぼこりがたちこめ，むし暑くて35℃になることもあります。腰をかがめて床をはいまわり，綿くずを掃除します。昼に30分の食事時間をはさんで，夜の8時まで働きつづけます。疲れて床にすわりこむと，監督のムチがとびました。

事故は目の前で起こりました。10歳のメアリのエプロンが，回転する機械の軸にはさまれ，体ごと巻き込まれたのです。片足を失った女の子に，工場主は見舞金さえ払いませんでした。1847年には，イギリスの綿工場の労働者の70%以上が，女性や18歳以下の子どもでした。

3 世界で最初に営業した鉄道（1830年）／スチーブンソンの設計した蒸気機関車が，マンチェスター―リバプール間を時速27kmで走った。

4 産業革命のころのイギリスのおもな都市

■ 手作業から機械へ

イギリスの人びとは，長い間，職人が手作業でつくった毛織物を着てきました。18世紀には，インドから綿織物が輸入され，人気を集めました。あざやかな色に染まり，軽くて，洗濯しやすいからです。

イギリスでは，綿織物を速く，安く，大量に生産するために，新しい機械が次々に発明されました。アークライトは水力紡績機を発明し，いくつもの紡績工場を経営しました。

蒸気機関を動力に使うようになると，工場は町につくられるようにな

142